

私のおばあちゃん

新見市立新見南中学校

一年 森 田 歩 実

私のおばあちゃんの一日は、洗濯物を乾燥機で乾かすところから始まる。そして、私やお姉ちゃんを起こすまでの間、自分の身支度をしたり乾いた洗濯物をたたんだりしている。

私のお母さんは、ほとんど毎日仕事に行くので、朝ごはんを作つたり、お弁当を作つたりして朝はとても忙しい。だからお母さんの手がはなせないとき、おばあちゃんが朝起きられない私たちを起こしてくれる。

「おーい、間に合わんぞー。」

お父さんも大きな声で声をかける。私はバスで通学しているので、バスに間に合わないと大変だ。お父さんは、早く準備をするようせかしがちだ。バスに間に合いそうにないときお父さんは、

「事故するけえあんまとばさんの。」

とおばあちゃんを心配する。でもそんなときおばあちゃんはせかさず準備を待つてくれる。そして、なんとか間に合うように、お父さんの言葉を無視してぶつとばしてくれる。そのおかげで、間に合うことができる。そして、バス停に

着いてバスの音がしたとき、いつも必ず

「いつてらっしやい。」

と言つてくれる。時には、

「お茶しつかり飲むんで。」

と言つて、私やお姉ちゃんの体調を気づかつてくれる。本当に、穏やかで優しいおばあちゃんだ。私たちが学校に行っている間も、おばあちゃんは家の中の事や外の畠仕事をしてくれている。そんなおばあちゃんは、本当にすごいと思う。

うちは桃農家で、桃を育てている。桃は主におじいちゃんが作つていて、夏の収穫時期は猫の手も借りたいぐらい忙しい。もちろん、おばあちゃんは、普段よりずっと忙しくなる。私が朝起きたときは、すでに外で作業をしている。外の作業は、暑くて大変なはずなのに、たまに家の中の様子を見にきて、

「大丈夫、心配ないか、朝ごはんちゃんと食べたの。」

と気にかけてくれる。そしてお昼になると、いつたん桃の作業をやめてお昼の用意をしに、中に入つてくる。汗を流しながら、

「お昼なに食べたい。」

と聞いてくる。私たちが部活がある日でも、桃のことで忙しいはずが、必ず時間までには、むかえにきて聞いてくれる。そして、私はよく

「チャーハンがいい。」

と即答で言う。おばあちゃんの手作りチャーハンは、私の一推し。食べたい物を言うとすぐ作ってくれる。こんなおばあちゃんだからこそ、どうしてこんなに私たちのために気をつかつて、働くのか不思議な気持ちがあつた。

そんなおばあちゃんは、私が小学五年生くらいのときに、動けずあまりごはんが食べられないくらいの体調を崩してしまつたことがある。そのときのおばあちゃんは、今まで私が見てきた中でも特に辛そうだつた。でも一番びっくりだつたのが、自分が辛い状況でも私やお姉ちゃんに、かされた声で

「もうばあばのことはいいいえ、ごはんは食べたん。」

と言つたことだ。私だつたら、人の心配が出来ると思わないし、そんな余裕もないと思う。そして、あまり家事などをやつていなかつたお父さんも、その日から毎日洗い物をしてくれるようになつた。私も、今までおばあちゃんに色々任せきりだつたと、とても自覚した。だから、おばあちゃんの体調がよくなるまでおばあちゃんがやつていたよう、家事をしてみた。

そんな日が続いて、おばあちゃんが回復した。その回復した後に、おばあちゃんがすぐ私たちに

「ありがとうね。」

と笑いかけながら言つてくれた。そのとき、私は今までおばあちゃんがしてきてくれたことにあまり感謝が出来てないと思つた。しかも、私はおばあちゃんと比べると全然働

いていないのに、おばあちゃんにとつてはうれしかつたんだと思つた。

その回復後もおばあちゃんは、いつも通り家事をしてくれていた。そんなおばあちゃんを見て、私は今までよりお手伝いをした。おばあちゃんの「ありがとう」がまた聞けるように、そして少しでもおばあちゃんが休めるよう、自分ができることはやつていきたいと思つた。

今私は、たまに親やおばあちゃんに任せすぎてしまうことがある。だけど、これから的生活で、みんながもつと笑つて過ごせるよう、家族みんなで支え合つていきたい。そして、自分だけではなく家族や周りの人を気づかえるようになしたいと思う。私の目標は、おばあちゃんだ。